

2023(令和5)年 10月10日

報道関係者 各位

松山大学  
(全3枚送信)

## 2023年度 コンコルディア大学 ウィスコンシン校(CUW) 薬学部 短期研修プログラム 報告会開催

松山大学では、2023年10月12日(木)に、本年9月にアメリカ合衆国コンコルディア大学ウィスコンシン校(CUW)にて実施した短期研修プログラムについての報告会を開催いたします。

この短期研修プログラムは、本学薬学部4年次生2名と薬学部教員1名がアメリカ合衆国北西部のウィスコンシン州に位置し、薬学、看護学、保健学、人文科学、自然科学、経営学、教育学などの学部を擁する総合大学コンコルディア大学ウィスコンシン校(CUW)薬学部において、選択科目である「国際医療薬学」の授業の一環として実施されたものです。

本学薬学部生がCUWを訪れるのは今回が初めてで、研修では実際に開講されている薬学部の授業聴講やセミナーへの参加、また学生実習では在學生とともにグループワークを通じアメリカの薬学教育を体験しました。医療現場の最前線である病院を訪問した際には、アメリカの医療体制の現状と、日本の医療に関する相違点など多くの内容を学習しました。また授業外においても、薬学部の学生と一緒に様々な形で交流した様子もご報告いたします。ぜひ、ご取材ください。



### 報告会 開催概要

日時：2023年10月12日(木) 15時～16時

会場：松山大学文京キャンパス 221教室(松山市文京町4番地2)

参加者：本学薬学部の学生と教員(参加希望者)

報告内容：1)「CUWの紹介と研修全体について」

引率教員 松山大学薬学部 准教授 奥山 聡(おくやま さとし)

2)「参加した各授業と実習の内容について」

参加学生 松山大学薬学部医療薬学科 4年次生 山本 陽南向(やまもと ひなた)

4年次生 大野 莉実(おおの りみ)

## <本学と対象大学との関係について>

本学薬学部とCUW薬学部は、先に連携協定を結んでいた愛媛県新居浜市を介して繋がり、2018年3月に学部間協定を結びました。新型コロナウイルス感染拡大の影響でお互い交流が出来ないまま2023年3月に協定の有効期間である5年が経過。コロナ禍が明け渡米できる状況となったタイミングで、今回の研修が実現しました。

## <担当教員コメント> 松山大学薬学部 准教授 奥山 聡(おくやま さとし)



本研修プログラムでは、CUWでの薬学専門科目の講義・実習への参加を中心に、現地の病院内薬局における薬剤師業務の見学を実施しました。両国における薬学教育システムおよび薬剤師業務の違いについて理解を深め、将来、国際的視野を有する薬剤師として活躍してくれることを期待しています。

アメリカの学生は幼少期からの教育環境や個人の性格も含めて、授業内では積極的に発言し参加する印象です。本研修に参加した学生にとっては、実際にそのような学生達の積極的な姿を見て、非常に刺激を受けたと思います。今回参加した学生は現在4年次生で、今後、薬局・病院の実務実習を経験する学生です。実習を経験していく中で、今回の研修で学んだことがさらに生かされてくると思われます。

## <参加学生コメント> 薬学部医療薬学科 4年次生 山本 陽南向(やまもと ひなた)



元々海外に興味があり、いつか行ってみたいと思っていたところ、この研修の募集を見つけました。海外の大学の薬学部の授業に参加させて頂くとなればこのような機会でもないと難しいと思い、応募しました。

座学が多い日本に対して、アメリカは実務的な授業がとても多いです。日本でも試験のためではなく自身の将来のための実践的な練習をもっと行うべきだと思いました。現地の学生は先生からのちょっとした問いかけに対して口々に答えていたり、興味のある企画に迷わず参加したりと行動していて、とても楽しそうでした。私もただ授業を受け身で聞いているだけの大学生活よりも、質問したり自分で考えたりしながら自発的に受講して大学を楽しんでいきたいです。

## 薬学部医療薬学科 4年次生 大野 莉実(おおの りみ)



服薬指導の練習の評価方法が日本とかなり異なっていたのが非常に印象的でした。また、現地の学生さんとすれ違うたびにお菓子をくださったり、お話しして下さったり非常に友好的だったところも印象的でした。授業中でも日常生活においても、積極性が必要だなと感じました。また、現地の皆さんはホスピタリティ精神が旺盛で大変おもてなしいただいたので、見習わなければならないなと思いました。今回このような研修に参加させていただき、非常に多くの刺激を受けました。日本でも勉強のみならずさまざまな活動に意欲的に参加していきたいです。

